

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2376号 2017年09月19日（火曜日）

## 《 Dow posts 5th straight record close 》

今週は既に始まっているので短めに。マーケットの全体的な状況を週末に日本を襲った台風に関連して言うと、「不安一過」という形です。無論それはある意味「言い過ぎ」で、市場には常に不安が付きものです。ハリケーンに連続して襲われているアメリカ経済の先行きなど。しかし「当面の…」と言われた大きな不安は急速に萎んだ。故に市場は再びリスク・テークの方向に舵を切った。株は世界的に高値を追い、外国為替市場では各国通貨に対して円安が進行中。

海外の週明け月曜日のマーケットを見ると、ヨーロッパ株も高いがニューヨーク株は主要3指数とも上昇し、ダウとSP500が史上最高値更新。ダウ（引値は22331.35ドル）は5営業日連続の高値更新。金融株と防衛関連株が高く、市場ではリスクテークムードが高まっている。外国為替市場ではドル・円は111円台で続伸し、ユーロ・円は133円台になっている。ECBと日銀との金融政策スタンスの差が注目されているのだろう。

なぜ“一過”か。まず北朝鮮情勢。北朝鮮自体が「核・ミサイル開発は最終段階」と言い始めた。としたら今後の展開の選択肢は絞られてくるし、その中に「米国の軍事オプション」が含まれるのは確かだが、その可能性は依然として小さい。北朝鮮は挑発を繰り返しているが、実はアメリカを怖がっていることは明確で、実際にやっているのは「寸止め挑発」。グアムに届くが、グアムの方向には打たない「火星12号」といった展開。北朝鮮のミサイル発射や核実験は、繰り返される中でマーケットにとっては新鮮味がなくなってきた。

トランプ政権の今後。マーケットが一番懸念した「米政府の債務上限到達→政府の機能停止」はトランプ大統領と議会民主党の合意で今月末の危機到来は回避され、当面は政府機関の閉鎖はなくなった。ドリーマー（小さいときにアメリカに両親と来た法的には不法滞在の子供達 約80万人）の扱いを巡っても、同大統領は民主党と協力の姿勢だ。ワシントンでは「新たな結合」（トランプ+民主党）の中で、今までよりは政治がすんなりと進む状況が生まれている。

むしろロシアゲートの調査が進む中での「一時の平穏」とも言えるが、今まで「トランプ対共和党指導部」（の対立）という図式を見せられてきたマーケットには新鮮だ。先行きが予測出来る環境になってきたと言える。一方、トランプ大統領はかつて候補の頃に

「無能」と非難した国連の本部を月曜日に訪れ、「その官僚主義と予算・人員での過ぎた米国依存(米国から見た場合の underperformance)」を非難したが、総じて大人の対応だった。同大統領は火曜日の午前（ニューヨーク時間）に国連総会で演説する。それは大統領らしい行為だ。

### 《 Goldilocks Economy and market 》

一方の市場を取り巻く環境は「ゴールドロック」のまま。今週はイエレン議長記者会見付きのFOMCが今日から2日間開かれる。4.5兆ドルに達した資産の縮小方針を正式に決め、10月よりの開始となる見込み。

しかしこれは十二分にマーケットに織り込まれている。FRBの事前の広報の成果とも言え、マーケットにそれを巡る不安感はなく、関心の的は「その後の利上げペース」となっている。その点については「決して足早にはならない」との見方が強い。当面の12月の利上げ確率は、直近の消費者物価上昇率（8月分）が予想より高かったために高まっているが、問題は「その後」だ。

FOMCはこれまで2%の目標を切ったままのインフレ率について「エネルギー価格の低下など一時的現象」であって、景気回復の中で「目標達成は時間の問題」としてきた。しかし最近ではイエレン議長に近い見方の理事やFOMC委員の中からも「もっと構造的な問題かもしれない」との見方が出てきている。

その点では日本時間の水曜日早朝に発表になるFOMC資料の中のインフレ見通しに関するドットチャートの長期見通しの部分が注目だ。FOMCの委員達がどのレベルの先行きインフレ率を見ているのか。前回は3%が一番多かったと思う。

もしそれが下がっていれば、2018年のFOMCの金利操作に関しては「据え置き見通し」が俄然高まることになる。つまり今年12月に利上げがあったとしたら、逆に2018年の利上げにはFOMCは慎重になるのではないかと、その見方だ。12月の利上げありやなしやに関して、依然として「確率は5割に達していない」との見方が強い。もっと年末が接近しないとはっきりしないが、現時点では「2018年にFRBの利上げがあるとしても、2017年ほどのペース（12月にあって年3回）にはならない」「もしかしたらあって1回」との見方をする人が増えている。

米長期金利の動きを見ると、先週取り上げた「2%切れ」の可能性は一時的に遠のいている。それがドル・円の111円台への展開の背景となった。何せ「中銀の動き」という観点で見ると、日銀には何の動きもない。その中でFRBは資産縮小に、そしてECBは「欧州経済の好調→出口戦略」という方向で動いており、円は売られやすい環境だ。

もっとも直近の米指標10年債の利回りを見ると、週明け18日は2.232%で引けた。それほど足早に2.0%の水準から遠ざかった訳ではないし、ここ一週間ほどは上げているが、長い目で見れば「米長期金利は低水準で安定している」と判断することが可能だ。としたらそれは米株式市場にとっての好材料と見ることができる。

-----  
今週の主な予定は以下の通り。

09月18日（月曜日）	米9月NAHB住宅市場指数
09月19日（火曜日）	米7月対米証券投資 独9月ZEW景況感指数 米8月住宅着工件数 米4～6月期経常収支 米8月輸出入物価 米8月建設許可件数 FOMC（～20）
09月20日（水曜日）	8月貿易統計 8月訪日外国人客数 8月主要コンビニ売上高 米8月中古住宅販売件数 日銀金融政策決定会合 イエレンFRB議長会見（景気見通し改定）
09月21日（木曜日）	8月粗鋼生産速報 石油製品価格調査 7月全産業活動指数 米9月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数 米7月FHFA住宅価格指数 米8月CB景気先行総合指数 ECB拡大理事会 休場＝インドネシア
09月22日（金曜日）	休場＝マレーシア

週末にはドイツの総選挙がある。大方の見方は「Merkel's German election victory looks assured」（CNBC）というものだが、問題はその後。メルケル所属のキリスト教民主同盟とどの政党が連立を組むか。なのでCNBCは紹介したタイトルの後に「but the real test comes after」と書いている。

なお今入ったニュースでは、新しく生まれたハリケーン「マリア」がプエルトリコの手前でカテゴリー4に発達したそう。またしてもアメリカを襲う可能性があると思われる。相次ぐハリケーン被害をアメリカはどう消化するのか。

突然降ってわいた解散風は、マスコミ辞令的に「10月末投開票の見通し」と報じられているが、北朝鮮情勢の急展開などがあれば日程が変わる。11月にはトランプ大統領も来るが、政治日程が混み合っている中で実際に「勝てるのかどうか」を安倍首相は今後数日を

かけて考えるのでしょうか。確かに野党は弱い。しかも乱れている。しかし安倍首相を積極的に推す力は国民の間では弱いように思う。不支持率が高い。今朝の新聞では安倍首相は選挙で「消費増税 使途変更問う」（日経トップ）らしいが、それが選挙を行う根拠となるのか。

### 《 have a nice week 》

3連休はいかがでしたか。日本の多くの地方が連休の真ん中を台風に襲われたため、予定が狂った向きが多かったのではないのでしょうか。秋祭りを途中で切り上げたり、延期したところが多かったようです。もっとも今回の18号は日本全国に雨をもたらした。台風は迷惑ではあるが、ありがたい存在でもある。

-----

ところで、台風一過の秋晴れの月曜日。品川でフェルサブルータ (FUERZA BRUTA)を見ましたが、いや面白かった。南米アルゼンチン発。世界30の国と地域で既に500万人以上を魅了しているらしいが、本当の意味で「新しい体験型エンターテインメントショー」でした。空間(光)と、風と、そして水、何よりも激しい動きのショーで、ずっと立ち見の観客ですが、参加どころがたくさん。日本の祭りがふんだんに取り入れられている。

なにせ最後には観客の頭上に巨大なプールが現れますからね。頭上ですよ。その上で4人の踊り子が飛んだり跳ねたり、流れたり。しかしプールの底は透明なのに頑丈なのです。正式名称は「フェルサブルータ WA!」となっていて「構想に10年」とか。日本にインスパイアされて創られたアルゼンチンと日本の共同制作とのこと。

「WA!」というだけあって随所に和の演出が。しかも絶対に飽きない。一時間余はずっと全観客が立ったままだし、しばしば演出の都合で真ん中を空けたり詰めたりで移動する。しかし「何故動かなければならないか」が良く理解できる。「フェルサブルータ」とはスペイン語で「獣の力」という意味らしい。確かに荒々しい場面も多い。が、そこに「WA!」が加わる。異空間です。いや面白かった。

-----

それとは別に先週は「三度目の殺人」も見ましたが、これも面白かった。「裁き」に関する映画なので、顔と顔が向き合い、尋問し、主張し合う場面の中で映画は進行します。それぞれの登場人物の顔は基本的に向き合って、相対峙している。刑務所の面接室、そして裁判場面。しかし最後に犯人である役所さんと、その弁護士である福山君が、重なるようにして同じ方向を向いて語る場面。とっても印象的です。最後の最後に。What a difference between the two ? と問いかけるように。

言葉もとっても印象に残るものです。目の見えない人々が、ある人は象の耳に触り、ある人は象の鼻に、そして別の人は象の牙に触って「象とはこうだ」と主張し合う。群盲象を評すと短く表現されるインド発祥の寓話。象は巨大です。盲人達の手が届かない部位も多い。がそれぞれの人はゾウの鼻や牙など別々の一部分だけに触り、その感想について語り合う。

が触った部位により当然感想が異なり、それぞれが「自分が正しい」と主張して対立が深まる.....。

世の中で「こうだ」と言われていることの多くは、しばしば一部だけを触った、全体像が見えない人々が、「自分の見方が正しい.....」と思い、そして主張しているだけかも.....という。ニュースを扱っている私のような人間は、いつもこの問題を考えている。映画の最後に福山君（弁護士役）が確か右手で顔の左頬をなぞる。顔に血は付いていないが、それはこの映画で最後の kill が行われた確たる証拠のように見える。むろん手は下していないが、映画はそれを示唆する。

とっても、とっても良い映画です。第 74 回ヴェネチア国際映画祭のコンペティション部門に正式出品されたが、受賞を逃した。しかしそれでも見た人々に深い印象を残したのではないか。問題意識は深い。映像は全体的に暗い。同じ人生と人の生き方を考えさせる「ニュー・シネマ・パラダイス」のようなカラッとしたところはない。重い。「それがな.....」とも思う。もしかしたらちょっと難解だったのかも知れない。

しかし是枝監督はとっても良い映画を生み出したと思う。気になる言葉も。「訴訟経済」。それは人間の社会が運営上持つ一種のトラップだ。それから抜け出せない中で、それぞれがファクトの進行に苦しみ、そして悩む。

「三度目の殺人」はとっても良い、そして考えさせられる映画です。それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》